

令和8（2026）年度7月「歳時記」

文月7月は、本格的な夏へと移り変わっていく時期です。7日は「小暑」。梅雨の名残を残す空の下、入道雲が湧き、蝉の声が力強さを帯びてきます。湿り気を含んだ風に混じる土や草の匂いが、外へと誘うように心を動かします。季節の移ろいを静かに見つめるとき、自然の息遣いが身近に感じられます。

子どもたちにとっては待ちに待った「夏休み」が今年は実質18日にスタートします。朝顔の観察日記、ラジオ体操、蝉取り、プール、夕立——夏ならではの情景が町のあちこちに広がります。おとなになった私たちは子どもの無邪気な笑顔に心を和ませ、季節の厳しさがどこか柔らぐ瞬間を得ます。

20日は「海の日」。海の恵みに感謝し、海とともに生きる日本の心をあらためて思い起こさせる日です。瀬戸内では波打ち際に集う人々の笑い声が響き、潮風が町街を洗い流すように爽やかな高揚をもたらします。海の広がりや光が、暮らしに静かな誇りと安らぎを与えてくれます。

「大暑」は22日。陽光が最も強さを増す季節です。太田川の川面は陽の光を反射してきらめき、木陰に逃れてもなお暑さが肌に残ります。自然の力強さが頂点に達するこの頃、日々の営みは夏の厳しさと向き合いながらも、同時に生命の躍動を感じさせます。

また、下旬から8月上旬には「納涼加計まつり」（25日）、「ふれあい戸河内まつり」（8月1日）と夏祭りが続き、県内外から多くの人々が安芸太田町に來られます。町が賑わう光景から、地域の結びつきと伝統の力を改めて感じるひとときです。祭りの灯りと人々の声、そして花火が夜空に溶け合うとき、町はまたひとつ大きな記憶を刻みます。

二十四節気が示す通り、7月は季節の勢いが最高潮へ向かいます。自然の躍動と人々の高揚が重なり合うこの時期は、まさに日本の夏の象徴と言えるでしょう。文月、皆さんの心に刻まれた夏の記憶を、暑中見舞いなど「文」にして全国に送るのも一興でしょう。

<古文>

瀬戸浦の内に、何とか言へる小さき入江あり。先年、国君船にて遊覧ましまして
し時、民家ただ一軒あり。親子三人住めりしを御覧あり。駒木根八兵衛正次を召
して、何を営みて過ごすや聞き候へと、仰せありしほどに、尋ねしかば、釣
りをして世を渡ると申す。また御意に、何にても望み候へとのことなりしに、ほ
かに望み申すことなし。網を下さるることあらば、やすく営み仕るべしと申
す。やがて宮地某に申し付けて、ととのへとらせよとの御事にて、駒木根かれ
これはからひしに、後は追々に家あまた栄え、一つの浦になりける。これひとへ
に駒木根が陰なりとて、駒木根八兵衛明神と祝ひこめ、社を建て、その所の
氏神とうやまふとなり。これ駒木根いまだ生存の日よりのこととなん記せる。思
ふに、昔唐土にて、善政をほどこしける良吏を慕ひて、生祠を建てしことこれ
かれ見ゆ。こなたにてはめづらしきことなり。

<口語（現代語）訳>

瀬戸浦のなかに、何とかといった小さい入り江がある。何年か前、君主が船で
遊覧なされたとき、（その場所に）民家がただ一軒ある。（そしてそこで）親子三人
が暮らしているのをご覧になる。（君主は）駒木根八兵衛正次をお呼びになって、
何をして暮らしているのか、聞きなさいと命じられたので、尋ねたところ、釣り
をして生計を立てていると申し上げる。またご命令に、何でも望みなさいとのこ
とだったので、ほかに望み申し上げることはない。網をくださることがあれば、
暮らしが楽になるでしょうと申し上げる。すぐに宮地なんとかに申し付けて、
用意をして与えよとのことで（あったので）、駒木根があれこれ取り計らったの
で、そのあとはしだいに家がとても繁栄して、一つの漁村となった。これはひと
えに駒木根のおかげであるとして、駒木根八兵衛明神とあがめて、社を建てて、
その場所の氏神として敬ったということだ。これは駒木根がまだ生きていると
きのことであると記している。考えてみると、昔中国では、よい政治を行っ
たよい役人を慕って、生祠を建てたことがあれこれと見られる。こちら（日本）

では例がないことである。

出典は「閑田次筆」です。「閑田次筆」は、江戸時代中期の随筆で、作者の橋南谿が旅先で見聞きした人々の暮らしや珍しい出来事などを、軽やかな筆づかいで記した作品です。身近な話題から世の中への鋭い観察まで幅広く描かれており、当時の庶民文化や社会の様子を生き生きと伝えている点が魅力です。

この話では、瀬戸浦の小さな入江に暮らしていた貧しい漁民に対し、君主が漁網を与えたことをきっかけに集落が発展していく様子が描かれています。そして、人々はその功績を支えた駒木根八兵衛の徳をたたえ、生前から神として祀りました。作者は、中国で善政を行った役人を生きているうちに祀った「生祠」の例を引き合いに出し、日本では珍しい、人々が善い政治や恩義に深く感謝した逸話として紹介しています。

それでは練習問題です。皆さんぜひチャレンジしてみてください。

<問題>

問1 次の古文の意味として最も適切なものを記号で選びましょう。

①「世を渡る」

- ア 海を渡って暮らす イ 世の中を旅して回る ウ 生活をしていく
エ 人々と交流する

②「駒木根が陰なり」

- ア 駒木根の秘密である イ 駒木根のおかげである
ウ 駒木根の家来である エ 駒木根の子孫である

問2 次の問いに答えましょう。

① 国君は、民家に住む親子三人の暮らしぶりを知るために、誰に命じて事情を尋ねさせましたか。漢字7文字で書きましょう。

② 親子三人は、国君から「何でも望みなさい」と言われたとき、何を望みまし

たか。^{かんじ}漢字^{もじ}1文字^かで書きましょう。

問3 ^{とい}筆者^{ひっしや}は^{こまぎねはち}駒木根八兵衛^{へえ}をどのような人物^{じんぶつ}として評価^{ひようか}していると考^{かんが}えられますか。40字程度^{じていど}で書きましょう。

<^{かいどうれい}解答例>

問1 ^{とい}① ウ ② イ 問2 ^{とい}① ^{こまぎねはち}駒木根八兵衛正次^{へえまさつぐ} ② ^{あみ}網

問3 ^{とい}人々^{ひとびと}の暮^{くら}らしを助^{たす}け、地^ち域^{いき}を発^は展^{ってん}させたため、生^いきているうちから神^{かみ}として敬^{うやま}われるほど慕^{した}われた人物^{じんぶつ}。

^{あ き おおたちょうきょういくいいんかい}安芸太田町教育委員会 ^{きょういくちょう}教育長 ^{おおの}大野 ^{まさと}正人